

同志社大学

同志社社史資料センター報

$$3b(g+h) - 2gsh \times \frac{1}{6}$$

$$\left[(g+h)(g+h) - gh \right] \frac{1}{2} (b+sh)h = bh + sh^2$$

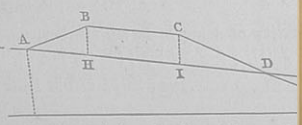
$$(bh + sh^2) + (bg + shg) + 4\left(\frac{b+sh}{2}\right) \frac{1}{6}$$

78

TRIGONOMETRY.

projected on a horizontal plane. Also, let E' represent the vertical sections at the extremities. If we suppose vertical planes to pass through the lines AC, BD, the middle part of the excavation, or that contained between these vertical planes, will be a rectangular prismoid, of which A'B'KI will be one base, and C'D'ML the other base. Its solidity will therefore be given by Art. 114. The parts upon each side of the middle prismoid will be rectangular prismoids; or, if the two may be regarded as constituting a solid whose bases is the sum of the triangles whose other base is the sum of the triangles. Therefore the volume of the entire solid is one sixth of its length, by the sum of at the two extremities, and four times and equidistant section.

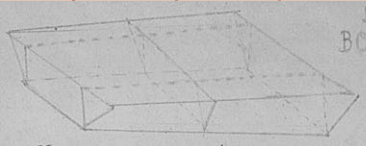
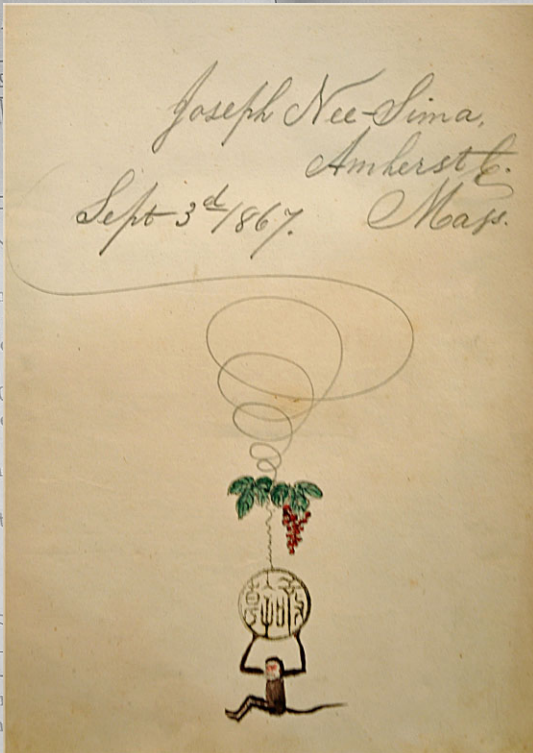
Ex. 1. Let ABCDEFG represent



land selected for the line of a railway, required, by cutting and embankment, to level a hilly surface to one uniform plane at the point G.

The distance AH is 561 feet; the distance DK is 820 feet;
 " " HI is 858 feet; " " KL is 825 feet;
 " " ID is 825 feet; " " LG is 330 feet.
 The perpendicular BH is 18 feet; the perpendicular KE is 19 feet;
 " " CI is 20 feet; " " LF is 8 feet

The annexed figure represents a cross section, showing



MENSURATION OF SOLIDS.

79

the slope $1\frac{1}{2}$ horizontal to 1 perpendicular; the depth ad is 10 feet, the width of the slope will be 15 feet.

Calculation of the portion ABH. is 18 feet, the length of cd in the cross section, and cf , the breadth at the top of the section, 10 feet. We accordingly find, by Art. 87, the area of the cross section at BH equal to

$$\frac{104+50}{2} \times 18 = 1386 \text{ feet.}$$

For the middle section, the height is 9 feet, cd is 13.5 feet, and cf is 7.7 feet. The area of the cross section is therefore

$$\frac{77+50}{2} \times 9 = 571.5.$$

The solid ABH will therefore be equal to $(1386 + 4 \times 571.5) \frac{561}{6} = 343332$ cubic feet, or 12716 cubic yards.

Calculation of the portion BCH. The area of the section at CI is therefore equal to

$$\frac{110+50}{2} \times 20 = 1600.$$

For the middle section, the height is 19 feet, cd is 28.5 feet, and cf is 10.7 feet. The area of the cross section is therefore equal to

$$\frac{107+50}{2} \times 19 = 1491.5.$$

The solid BCH will therefore be equal to $(1600 + 4 \times 1491.5) \frac{858}{6} = 1280136$ cubic feet, or 47412.4 cubic yards.

Calculation of the portion CID.

1. 巻頭言:2008年度の報告にあたって
2. コラム:早稲田大学野球部寮(安部寮)
3. 資料業務
4. 博物館学芸員課程の学外実習
5. 展示
6. 公開講演会・シンポジウム
7. 研究活動
8. 第166回新島襄生誕記念会
9. 新島旧邸
10. 委員会

第5号
2008年度

2008年度の報告にあたって

同志社社史資料センター
所長 露口卓也

当センターのもっとも基本的業務は同志社社史資料の収集・調査・整理・保存にある。この業務を着実に行うことがとりもおさずセンターの信用を得ることにつながっている。センターに寄せられる多数の品々はその信頼の証であると思われ、感謝申し上げるとともに業務の充実を改めて肝に銘じなければならない(本年度の寄贈一覧は『同志社談叢』第29号に掲載されている)。

一族の名前に並んで新島襄自署のあるセイヴォリー家に伝わるファミリー・バイブルの寄贈を受けた。脱国の恩人であるセイヴォリー船長のご家族に温かく迎えられた新島を語るものとしてこれほど貴重な品はない。センターに所蔵できるように取りはからっていただいた多くの人たちのご好意に心より御礼申し上げたい。なおこのバイブルは現在Neesima Roomにて展示されている。

本年度のNeesima Roomの企画展は、春に修復の成ったクラーク記念館を、秋には早稲田との交流をテーマとし、ともに話題となって多くの人たちの参観に供した。特に秋の展示は早稲田との共催、シンポジウムというセンターにとっては初めての試みであったため準備に時間を費やしたが、早稲田大学との交流が深まったことなど充実した成果を得られたと思われる。シンポジウムの内容については同上誌にまとめられている。

本年度に新しい試みとして行ったのは、博物館学芸員の「学外実習」を受け入れたことである。以前よりセンターが学生とどこかで接点をもつ必要があると感じていたこと、そしていつか学生たちがセンターの事業に参加してもらう布石ともなればとの思いにもとづく試みであった。できれば今後も続けていきたいと考えている。

もうひとつ付言しておきたいのは、昨年度より構想していた第二部門研究が本年度末にようやく立ち上げに至ったことである。来年度は『同志社談叢』が30号を迎えるが、その誌上に第二部門研究の成果が活かさればと願っている。

基本的業務の充実はセンターの活性化があってこそである。スタッフにとってかなり手一杯の状態ではあるが頑張っていきたい。

早稲田大学野球部寮 安部寮



野球部寮 安部寮

早稲田大学野球部といえば、東京六大学野球の雄として知られている。その歴史は古く、1901年創部で、初代野球部長は安部磯雄である。安部といえば社会主義者として広く世に知られた人物である。安部は早稲田大学政治経済学部の教員として学生等に多大な感化をもたらしたが、また同志社英学校の卒業生であり、同志社で教員を務めた人物でもある。

安部磯雄を慕い、尊敬の念をもつ方々は野球部のみならず早稲田大学全体に多い。なかでも早稲田大学内で最も目を引く存在の1つは早稲田大学野球部寮の安部寮であろう。野球部寮に安部の名が冠されたのは1949年安部磯雄が死去してまもなくのことであった。安部の死去に伴い当時の合宿所の名前が安部寮に変更され、同時に戸塚球

場(1902年建設)が安部球場(現在の早稲田大学総合情報センター敷地)と呼ばれるようになった。安部球場の名は1987年早稲田大学創立100周年事業の一つである総合情報センター建設のため、球場を保谷市東伏見に移転したこともあって現存しない。一方で、野球部寮は1992年に東伏見に新設され、安部寮の名前が受け継がれた。ちょうど今年(2022年)は安部寮の名前が使用されてから60年目にあたる。注記しておくべきは、安部寮にて生活を許される学生はレギュラー選手のみということである。

野球部にとって安部を重んじるその気持ちが表現されたのは寮名や球場名だけではない。現在の安部寮内には安部磯雄記念室が入口正面に設けられている。その横には動き続ける限り優勝は揺るがないという野球部に伝わる置時計がある。記念室は、資料保存等のため常に公開されているわけではないが、



安部磯雄記念室

かつて安部が述べた言葉「知識は学問から、人格はスポーツから」を重んじる伝統にふさわしく、寮で生活する選手の中心的な位置にある。安部の教えに対する野球部の姿勢を窺い知ることができよう。

安部磯雄が永眠して今年で60年となるが、早稲田大学野球部が伝統として安部磯雄の教えを尊び、後世に語り継いでいるという事実は、同志社としても喜びであると同時に見習うべきところではないだろうか。

(同志社社史資料センター)

資料業務

1. 資料整理

社史資料センター網別蔵書冊数(逐次刊行物は除く)

(2009年3月31日現在)

	00	10	20	30	40	50	60	70	80	90	合計	比率
0 総記	0	49	185	36	76	3	29	22	106	1,527	2,033	19.7%
1 哲学	14	8	165	31	25	140	44	20	79	1,372	1,898	18.4%
2 歴史	34	1,021	98	39	0	32	0	0	859	200	2,283	22.1%
3 社会	112	159	146	135	9	12	139	1,753	13	22	2,500	24.2%
4 自然	28	22	14	9	10	19	32	23	20	52	229	2.2%
5 技術	9	11	48	7	7	4	5	4	10	14	119	1.2%
6 産業	12	23	1	0	0	2	3	23	10	3	77	0.7%
7 芸術	23	2	75	9	13	20	36	5	23	7	213	2.1%
8 言語	8	68	15	67	9	4	0	2	1	10	184	1.8%
9 文学	30	524	114	84	23	2	0	0	2	1	780	7.6%

※日本十進分類法による分類

総冊数 10,316冊

2. 資料提供(写真資料を中心に)

資料提供日

2008年

- 4月 9日 株式会社ひでみ企画：京都交通局発行『おふたいむ』掲載／新島旧邸関係写真1点
- 14日 京都ロータリークラブ：『ロータリークラブ会報』掲載／新島旧邸関係写真、旧新島会館関係写真各1点
- 5月 15日 日本女子大学成瀬記念館：日本女子大学創立者 成瀬仁蔵生誕150年記念出版物『あなたは天職を見つけたか』掲載／新島襄肖像写真、同志社礼拝堂写真各1点
- 16日 社会福祉法人奥州市社会福祉協議会：演劇で使用／山崎為徳肖像画写真1点
- 7月 4日 株式会社NHKエデュケーションal教育部大学関連業務室：放送大学授業番組「大学と社会('08)」第5回日本の近代化と大学DVD使用／『新島襄—その時代と生涯』所収写真2点
- 15日 株式会社グラフィック：『京都いいところマップ』9月号(2008年9月1日)掲載／新島旧邸取材協力
- 25日 三洋化成工業株式会社広報室：広報誌『三洋化成ニュース』No. 450(2008年9月号)掲載／横田安止宛新島襄書簡(1889年11月23日付)デジタルデータ
- 8月 28日 京都新聞社：京都新聞(2008年9月6日朝刊)掲載／山本覚馬肖像写真1点
- 10月 6日 株式会社日本アート・センター：小学館ウィークリーブック『週間新説戦乱の日本史』47号掲載／新島八重肖像写真1点
- 11月 13日 高梁の近代とその人物学2008実行委員会事務局：「高梁の近代とその人物学2008」(2008年12月13日開催)広報印刷物掲載／新島襄肖像写真1点
- 12月 11日 株式会社エキスプレスシーアール：KBS京都番組「京都! ちゃちゃちゃっ」(2009年1月14日放映)使用／『新島襄—その時代と生涯』所収写真4点

-
- 株式会社新人物往来社：月刊『歴史読本 明治人の肖像』（2009年3月号）掲載／新島襄肖像写真1点
- 18日 株式会社NHK エデュケーショナル教育部大学関連業務室：放送大学授業番組「心理学史'05」第3回「元良勇次郎一わが国最初の心理学者」使用延長申請／J.D.デイヴィス関係写真、同志社英学校関係写真各1点

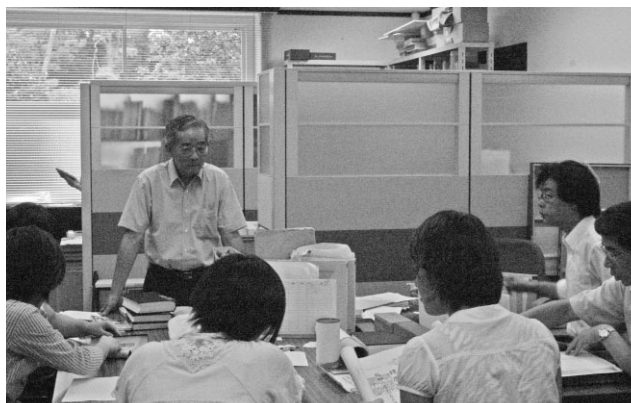
2009年

- 1月13日 NHK大阪放送局：NHK総合番組「歴史秘話ヒストリア 明治 悪妻伝説 初代“ハンサムウーマン”新島八重の生涯」（2009年4月22日放映予定）使用／新島八重関係写真20点および新島旧邸撮影協力（3月9, 10, 11, 12, 30日）
- 1月22日 会津若松市：会津若松市DVD版『会津の歴史』（約120分、2009年3月刊行）使用／山本覚馬肖像写真1点
- 2月 9日 株式会社リュウ・エンタープライズ：日本テレビ「日本史サスペンス劇場」（2009年3月11日放映）使用／新島八重関係写真3点
株式会社オフィス303：『アラマタ人物伝』（講談社、2009年7月刊行予定）掲載／新島八重関係写真3点
- 3月18日 映像舎：『西三河の肖像』（2009年4月5日より1週間リピート放送）使用／同志社ハリス理化学校関係資料2点

博物館学芸員課程の「学外実習」

本年度、本センターでは初めての試みとして博物館学芸員課程学生の「学外実習」を受け入れた。この「学外実習」は、学内外の博物館等施設における実務実習（館園実習）とは別に課せられている実習で、主に夏期休暇中に実施されている。

本センターが受け入れた実習生は14名で、3つのグループに分けて8月第1・3・4週の各週3日、計9日にわたってセンター内で実習が行われた。実習テーマは「同志社社史資料の調査と整理」と設定された。最初に「同志社社史資料センター資料収集方針」の説明と新島遺品庫や資料室の見学を行い、続いてセンターが所蔵する未整理資料の整理を行なった。対象となった資料は、創立60周年、募金、理事長、基督教団体などの記録、書・拓本やポスターなど雑多である。担当者のアドバイスのもと、実習生のペアが相談しながら作業は進められた。まず資料を段ボール箱から取り出して机上で資料の性質により分類、次に資料名等をリストに記載し、最後に各資料の評価を行なった。最終日には実習生各



自から感想が述べられたが、おおむね好評であった。

センターとしても初めての経験であり、資料の選択や作業の進め方、時間の設定などに改善を要する点も見受けられた。また、Neesima Roomの企画展に何らかの形で企画してもらうことも考えられ、次年度以降の課題とした。

（同志社社史資料センター）

展 示

2008年度は2回のNeesima Room企画展(特別展を含む)を実施し、新島会館、ラーネッド記念図書館および理化学館(京田辺キャンパス)、The Doshisha学校合同説明会、ホームカミングデー2008への展示協力を行った。

1. Neesima Room企画展

・春学期(第33回企画展)

2008年4月1日(火)～7月31日(木)

テーマ:「よみがえる クラーク記念館」

来訪者数:延べ2,791名

実施日数:113日



・秋学期(第34回企画展)

2008年10月1日(水)～

2009年1月31日(土)

テーマ:「早稲田と同志社

—創立者の想いと交流から—」

来訪者数:延べ2,571名(特別展を含む)

実施日数:103日



2. 特別展

・「早稲田と同志社—新島襄の弟子たち」展

2008年10月31日(金)～11月30日(日)

来訪者数:延べ1,095名

実施日数:28日



3. 展示協力

(1) 新島会館

・ 2008年4月から9月まで

「大正デモクラシー期の同志社—原田助総長と海老名弾正総長の時代」をテーマに写真パネル約20点を展示。

・ 2008年10月から2009年3月まで

「同志社と戦争」をテーマに写真パネル約20点を展示。

(2) 理化学館(京田辺キャンパス)

2008年4月より、2階ラウンジにて「新島襄が学んだ自然科学」をテーマに、数学、衛生学、化学、天文学関係の資料を展示。



(3) THE DOSHISHA学校合同説明会

2008年7月27日(日)、同志社クラーク記念館で行われた標記説明会に展示協力。

(4) ラーネッド記念図書館

2008年10月22日(水)から2009年2月27日(金)まで、ラーネッド記念図書館2階展示コーナーでの企画展示に資料協力。

(5) ホームカミングデー2008

2008年11月9日(日)開催ホームカミングデー2008にて企画展「Doshisha College Song 誕生100年」実施。



「Doshisha College Song 誕生100年」展



調査員によるツアー(ホームカミングデー)

公開講演会・シンポジウム



Neesima Room企画展のテーマに添った講演会を春学期に実施、秋学期には記念シンポジウムを実施した。

1. 公開講演会

演題：「クラーク記念館からのメッセージ
—5年間の修復工事を終えて—」
講師：鶴岡 典慶
(京都府教育庁指導部文化財保護課文化財専門技術員)
日時：2008年5月17日(土) 13:30~14:30
場所：クラーク記念館2階 クラーク・チャペル



2. シンポジウム

テーマ：「早稲田と同志社—創立者の想いと交流から—」
日時：2008年11月22日(土) 13:30~17:00
場所：明德館1階1番教室(同志社大学今出川キャンパス)
共催：同志社社史資料センター、早稲田大学文化推進部
司会：露口 卓也
(同志社社史資料センター所長、文学部教授)
報告者：「東京専門学校の創立とその理念」
島 善 高(早稲田大学社会科学総合学院教授)
「自由民権期における同志社と早稲田」
出原 政雄(同志社大学法学部教授)
「早稲田と同志社の交流—草創期を中心として—」
齋藤 洋子(早稲田大学大学史資料センター嘱託)
「早稲田と同志社の交流—同志社教育の目指すもの—」
小枝 弘和(同志社社史資料センター社史資料調査員)



研究活動

機関誌の刊行や第一部門研究(新島研究)の研究会は次のとおりである。

1. 第二部門研究(同志社史)研究会

第1回例会(発足式) 2009年3月25日(水)

2. 機関誌

『同志社談叢』第29号 A5版376頁 2009年3月1日発行

論叢	広瀬宰平、伊庭貞剛と新島襄—大学設立募金運動を中心に— ボストンの蔵原惟郭 ミス・デントン来日の前後(4) —J.N.ハリス宛の1通の手紙を巡って—	太田 雅夫 岡林 伸夫 日比 恵子
資料紹介	新島襄に関する新資料の紹介 M.F.デントンに関する新資料 —遺言・死後叙勲・生年について— 京都看病婦学校と同志社病院(2) —ミッション資料 "Life and Light for Woman"1888.2-1888.10. 掲載内容— J.D.デイヴィスとN.G.クラークの往復書簡(6)	本井 康博 坂本 清音 小野 尚香 森永長壹郎
翻訳	「同志社の土着化(1875～1919)」(その9)	北垣 宗治

3. 第一部門研究(新島研究)研究会(代表 本井 康博)

第85回例会	2008年4月14日(月) ・「デイヴィスのN.G.クラーク宛て手紙 (1876年2月23日～1877年5月5日)に見るキャプテン・ジェインズ」 報告者：森永 長壹郎
第86回例会	2008年5月12日(月) ・「『新島襄全集』第二巻を読む」 報告者：北垣 宗治
第87回例会	2008年6月9日(月) ・「ヨハネによる福音書の解釈について その2 新島襄の場合」 報告者：山本 真司
第88回例会	2008年7月14日(月) ・「近世新島家の儀礼と贈答の運びと—「祝物到来覚帳」の研究—」 報告者：籠谷 次郎
第89回例会	2008年8月2日(土) 総合司会：大鉢 忠 ・シンポジウム 「新島襄を若い世代にどう教えているか—『新島襄への扉』を使って—」 (1)同志社女子中学校・高等学校の場合 報告者：生田 香緒里 (2)同志社香里中学校・高等学校の場合 報告者：富田 正樹 (3)同志社国際中学校・高等学校の場合 報告者：山本 真司



	<ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム 「新島襄の伝記をめぐって」 (1)「湯浅与三著『新島襄伝』(1936年刊) 及び 魚木忠一著『新島襄 人と思想』(1950年刊)」 報告者：井上 勝也 (2)「神田哲雄と渡辺実の新島襄」 報告者：北垣 宗治 (3)「幻の新島伝」 報告者：本井 康博
第90回例会	2008年10月20日(月) ・「新島先生の足跡を辿って(ヨーロッパ編) -サンゴットアルド峠、リギ・クルム、ヴィースバーデン-」 報告者：田島 繁
第91回例会	2008年11月10日(月) ・「山本覚馬と新島襄」 報告者：井上 勝也
第92回例会	2008年12月8日(月) ・「デントン伝をめぐって」 報告者：坂本 清音
第93回例会	2009年1月26日(月) ・「Julius H. Seelye - 人と思想 -」 報告者：西田 毅

3. 第一部門機関誌

『新島研究』第100号 A5版379頁 2009年2月28日発行

巻頭言

同志社社史資料センター所長 露口 卓也

第100号記念特集Ⅰ 新島襄を若い世代にどう教えているか

はじめに

同志社香里中学・高等学校の場合

富田 正樹

同志社女子中学・高等学校の場合

生田香緒里

同志社国際中学・高等学校の場合

山本 真司

共愛学園高等学校の場合

頼富 雅博

第100号記念特集Ⅱ 新島襄の伝記をめぐって

はじめに

湯浅与三と魚木忠一の新島襄伝

井上 勝也

神田哲雄と渡辺実の新島襄伝

北垣 宗治

新島襄伝あれこれ

本井 康博

論 叢 新島襄と女性教育 - もう一つの志 -

坂本 清音

新島襄の畢生の事業 - 開始に当たっての努力・苦悩・祈り

井上 勝也

近世新島家の儀礼と贈答の人びと

籠谷 次郎

新島襄の母とみと「医師方雨森家」

関口 徹

新島襄の神学思想

大越 哲仁

札幌基督教教会と新島襄

小枝 弘和

柏木義圓と同志社問題 - 連袂事件を中心に -

坂井 誠

資 料 新島襄が学んだ神学① - 神学ノートの翻刻と考察 -

山本 真司

『新島研究』第1号～100号総目次

『新島研究』第1号～100号執筆者索引

第166回 新島襄生誕記念会

日時：2009年2月13日(金) 17:00—19:30

場所：同志社新島会館大研修室

表彰

新島研究論文賞 西村 四郎 (東京新島研究会)
新島研究功績賞 田島 繁 (元同志社中学校教諭)

記念講演

演題：安部磯雄から学ぶ
—同志社生徒時代の日記を翻刻して—
講師：大鉢 忠 (同志社大学理工学部教授)



新島襄生誕記念懸賞論文(2008年度)

【中学校の部】

最優秀賞 吉村 絢 (同志社香里中学校1年)
「新島襄が脱国した理由」
優秀賞 田中 亜依 (同志社女子中学校1年)
「1860年代に新島がアメリカに渡ることができた理由」
飯岡 利奈 (同志社国際中学校1年)
「『自由な学校』新島襄氏のリベラル教育」
矢田 知亜紀 (同志社中学校1年)
「新島八重から見る同志社」
佳作 該当者なし

【高等学校の部】

最優秀賞 該当者なし
優秀賞 桑原 悠 (新島学園高等学校3年)
「新島襄と軍艦教授所と数学」
北畑 早由吏 (同志社国際高等学校3年)
「同志社と私たちの芯」
梅澤 友香里 (新島学園高等学校3年)
「新島襄に学ぶ教育」
木村 優香 (同志社高等学校1年)
「同志社の自由主義」
佳作 吉田 早希 (同志社香里高等学校1年)
「回想文から読む新島襄」
野尻 優音 (同志社国際高等学校3年)
「新島襄の名刺」



新島襄が脱国した理由^{わけ}

吉村 絢 (同志社香里中学校1年)

脱国をテーマにした理由

私が新島襄先生の脱国をテーマにした理由は、新島襄先生について勉強をしていくうちに、先生はなぜ脱国をしようと考えたのか、また、どのようにして周りの人達に説明し、理解を得たのか、ということ疑問に思い、それをこの論文で書こうと思ったからです。

また、脱国を決意した理由や、原動となったのは何かを知りたかった、というのも、テーマにした理由のひとつです。

それらの事がらについて、調べたことや考えたことを書き綴っていこうと思います。

家族への説明

「新島襄先生はどのように家族に説明をしたのだろうか?」という疑問を持ったのですが、聖書科の先生の言うことには「家族への説明はほとんどしていない」そうでした。

しかし、「どこかで説明しているはず!」と思い、本で探してみたところ、弟・新島雙六(双六)宛の手紙に、「我不肖といえども、切に国家の不辰を憂え、万一の力を竭くさんとの志願と申しながら、犯し難き国禁を犯し、別れ難き君父に別し、断然この非常の挙をなし、長く父母をして悲哀に居らしむる事、法外至極、その罪許し難し。(中略)既に流るるの水、再び挽回し難く、これよりただ成業を期するのみ。」⁽¹⁾という言葉を見つけることができました。この言葉に、家族に対する脱国の意図の説明や、「別れ難き」家族や主君と別れる、裏切るような事をするという、新島先生の後ろめたい気持ち、裏切ったようなものなのに家族の気持ちを考えてしまう、という矛盾した気持ちがこめられていたのではないかと、私は考えました。

脱国の理由

では、そもそもそこまでして脱国したかったのはどんな理由だったのでしょうか。

まず、先程の手紙の中に「国家の不辰を憂え」とありましたが、これは、アメリカでは大統領を国民が選ぶということを知った新島先生が、日本の将軍もそうでなければならないと思ったことなのではないでしょうか。新島先生は、その事を知って、「その時以来、アメリカについて知りたいたいと思うようになりました。」⁽²⁾と述べています。このことも理由のひとつだと思います。

また、友人から、漢文の聖書を借りて読み、キリスト教や神の存在について知り、「この時以来私の心は英語の聖書を読みたいという思いにみだされ、函館に行って、イギリス人やアメリカ人の聖書の教師を得たいと決心したのです。(中略)函館に到着ののち適当な英語の教師を探しましたが、八方手をつくしても見つけることができません。そこで私の心は一変して、国外への脱出を考えるに至ったのであります。」⁽³⁾と脱国の理由として述べています。

主に以上の二つが理由だったと考えて良いように思います。

原動力となったのは何か

しかし、理由がどのようなものであっても、国外に脱出するという大きなことを実行するには、そのぶん、大きな原動力が必要だったと思います。

ましてや、家族を置いて行くのですから、その決意、原動力は相当なものだったでしょう。

新島先生自身、脱国などすれば、生きて帰れるかもわからないので、残して行く祖父や両親、姉たち、弟の双六、たくさんの友人がどんなに悲しむだろうかと考えると、せっかくのその決意も鈍ってしまったそうです。

しかし、それでも脱国ができたのは、「私の両親が私を生み、育ててはくれたが、私は本当は天の御父に属している。それ故私は天の御父を信じ、御父に感謝し、その道に従って走らなくてはならないのだ。」⁽⁴⁾と考えたことが原動力となったからだと思います。

新島先生は、自分の両親よりも、天の御父を優先されました。当時、先生の両親はキリスト教の考え方や神の存在などの詳しいことは知らなかったでしょうし、当時はまだキリスト教が禁止されていたころですから、自分の息子がそんなキリスト教を信じ、自分の両親より天の御父を優先して考え、脱国したと知ったら、きっと「とんでもない親不孝者だ！」と怒ったに違いありません。新島先生もまた、そうなるであろうことは、十分に承知の上で脱国したのですから、ものすごい勇気と決断力、そして、高い理想があったのでしょう。

わかったことのまとめと感想

まず、わかったことは、新島襄先生が脱国をした理由には、日本もアメリカのように、国民が代表者を選ぶべきだと考え、アメリカについてもっと知りたいと考えたこと、聖書を英語で、全部読んでキリスト教についても学びたいと思ったことなどがあったことと、その原動力となったのが、「天の御父に自分は属しているから、その道に従って走らなければならない」という考えであったことなどです。

親や主君を裏切り、家族や友人を悲しませるとわかっていながら、そんな後ろめたい気持ちを持ちながら、自分の信念に正直に行動した新島先生は、とてもすごいと感じました。とても勉強熱心で、良いと思ったことはすぐに行動にうつす、高い理想と強い信念、そして勇気を持った、行動力のある人だったんだろうと思います。

もしも自分が新島襄先生のような立場にあっても、脱国などとてもできませんから、新島先生が私のような人だったら、同志社という学校は設立していなかったでしょう。

そのことを考えると、新島襄先生という人が、先程述べたような人で良かった、と思いました。

〔注〕

- (1) 同志社編『新島襄の手紙』33ページ、岩波書店、2007
- (2) 新島襄全集編集委員会編『新島襄全集10』12ページ、同朋舎、1985
- (3) 前掲書、16ページ
- (4) 前掲書、17ページ

新島旧邸

ボストンの友人J.M.シアーズの寄付によって建てられた新島襄の私邸で和洋折衷の木造二階建て住宅として、また、同志社創立者の旧居として価値が高く、1985年に家具・調度類を含めて京都市有形文化財に指定された。

■公開日

3月～7月、9月～11月の毎週水・土・日曜日(ただし祝日、休日は除く)
春と秋の京都御所一般公開期間中および11月29日(同志社創立記念日)

■公開時間

10:00～16:00

〈2008年度見学者数〉

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	3月	合計
913人	485人	485人	440人	519人	600人	1,827人	584人	5,853人



新島旧邸



茶室



書斎

委員会

同志社社史資料センター委員会委員 (2008年度)

露口 卓也	同志社社史資料センター所長	菊地 登	高等学校教諭
圓月 勝博	教務部長	瀧 英次	香里中学校・高等学校教頭
片山 傳生	企画部長	太田 信幸	女子中学校・高等学校教頭
中山 健二	総務部長	敦賀 昭夫	国際中学校・高等学校教諭
神谷 遊	人文科学研究所長	竹山 幸男	中学校教頭
斉藤 延喜	歴史資料館長	本井 康博	神学部教授
植田 弘	法人事務部長	出原 政雄	法学部教授
大島 中正	女子大学教授		

同志社社史資料センター運営委員会委員 (2008年度)

露口 卓也	同志社社史資料センター所長	出原 政雄	法学部教授
神谷 遊	人文科学研究所長	大島 中正	女子大学教授
植田 弘	法人事務部長	太田 信幸	女子中学校・高等学校教頭
本井 康博	神学部教授	竹山 幸男	中学校教頭

事務室	所長	露口 卓也
	部長待遇 (参与)	田中 昭彦
	事務長	落合万里子
	担当課長	馬淵 吉倫
	社史資料調査員	小枝 弘和
	社史資料調査員	布施 智子
	アルバイト	3名

新島旧邸	アルバイト	3名 (4名で交代勤務)
Neesima Room	院生アルバイト	1名 (4名で交代勤務)

同志社社史資料センター規程

2004年4月24日制定

(設置)

第1条 本学同志社社史資料センター(以下「センター」という。)を置く。

(目的)

第2条 センターは、創立者新島襄並びに同志社関連資料の収集、整理、保存及び公開業務を継続、発展させ、同志社創立以来の歴史と伝統を後世に継承していくとともに同志社教育の充実と発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するために、以下の事業を行う。

- (1) 同志社社史資料の研究、収集、整理、保存及び公開に関すること。
- (2) 新島研究に関すること。
- (3) 同志社社史編纂に関すること。
- (4) 『同志社談叢』の発行に関すること。
- (5) Neesima Room の管理運営に関すること。
- (6) ハリス理化学学校記念展示室の管理運営に関すること。
- (7) 新島遺品庫の管理運営に関すること。
- (8) 新島襄旧邸の管理運営に関すること。
- (9) 新島襄及び同志社建学の精神についての啓蒙活動に関すること。
- (10) その他センター設置の目的に照らして必要と認められる事業

(所長)

第4条 センターに所長を置く。

- 2 所長は、学長が任命し、センターの業務を統括する。
- 3 所長の任期は1年とし、再任を妨げない。

(同志社社史資料センター委員会)

第5条 センターに同志社社史資料センター委員会(以下「センター委員会」という。)を置き、以下の事項について審議する。

- (1) センターの事業に関すること。
- (2) 社史資料調査員の候補者推薦に関すること。
- (3) その他必要な事項

(センター委員会の構成)

第6条 センター委員会は、次の者をもって構成し、委員は学長が委嘱する。

- (1) 所長
- (2) 教務部長、企画部長、総務部長、人文科学研究所長、歴史資料館長及び法人事務部長
- (3) 女子大学、高等学校、香里中学校・高等学校、女子中学校・高等学校、国際中学校・高等学校、中学校から各1名

(4) 学識経験者若干名

- 2 第1項第3号に掲げる委員は、各学校長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 第1項第4号に掲げる委員は、所長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 センター委員会は、所長が招集し、議長となる。
- 5 センター委員会は、委員の過半数をもって成立し、議事は出席者の2分の1以上の賛成をもって決する。ただし、第5条第2号に係わる議決は出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(運営委員会)

第7条 センター委員会に同志社社史資料センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

- 2 運営委員会は、第3条に掲げる事項について計画立案し、センター委員会の議を経てその実施にあたる。

(運営委員会の構成)

第8条 運営委員会は、次の者で構成する。

- (1) 所長
- (2) 第6条に掲げる者のうち所長が任命する者若干名
- (3) 所長が必要と認めた者若干名
- 2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 3 委員会は、所長が招集し、議長となる。

(事務室)

第9条 センターに事務室を置く。

- 2 事務室に職員若干名を置き、センターの事業、委員会に関わる事務、その他必要な事務を行う。
- 3 センターの事務組織は、同志社大学事務機構規程に定めるところによる。

(社史資料調査員)

第10条 事務室に社史資料調査員たる職員若干名を置く。

- 2 社史資料調査員は、社史資料の収集、整理、調査、企画、展示等の業務を行う。
- 3 社史資料調査員の選考に関する事項は、別に定める。

(事務の所管)

第11条 この規程に関する事務は、同志社社史資料センター事務室が行う。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、センター委員会の議を経て大学評議会で行う。

附 則

この規程は、2004年5月1日から施行する。

同志社大学
同志社社史資料センター報 第5号

発行日 2009年4月30日
編集・発行 同志社大学 同志社社史資料センター
〒602-8580京都市上京区今出川通烏丸東入
Tel. 075-251-3042 Fax. 075-251-3055
<http://www.doshisha.ac.jp/academics/institute/archives/>

表紙イラスト：新島がアーモスト大学留学時に数学の教科書に描いた落書き。
新島の諱(いみな:成人後の名前)である「敬幹」の印鑑に
ぶら下がる猿が新島のユーモアさを物語る。